

1. 題材名 「ごんぎつね」

2. 題材について

(1) 題材観

本題材は、目標(3)・内容「C読むこと」の学習である。

<目標>

(小学校学習指導要領から抜粋)

(3) 目的に応じ、内容をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読むことができるようにするとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。

<内容「C読むこと」>

(1) 読むことの能力を育てるため、次の事項について指導する。

ウ 場面の移り変わりや情景を、叙述を基に想像しながら読むこと。

エ 読み取った内容について自分の考えをまとめ、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。

カ 書かれている内容の中心や場面の様子がよく分かるように声に出して読むこと。

<内容の取り扱い>

(1) 「C読むこと」

読んだ内容などに関連した他の文章を読むこと、疑問に思った事などについて関係のある図書資料を探して読むことなど。

「ごんぎつね」は、第4学年の下の教科書で扱っている教材である。物語の主人公である小ぎつね「ごん」や村人「兵十」の様子や場面を想像することで「心の通い合い」を考えながら読む単元である。

<物語のあらすじ>

辺りの村へ出てきてはいたずらを繰り返す、ひとりぼっちの小ぎつね「ごん」。ある秋、母親の葬式でおおれている、村人「兵十」の様子を見たことから、いたずらばかりしていたごんの行動が変わり始める。兵十へのつぐないを続けるごんとそのことを知らずに過ごす兵十。そして、いつものように栗を届けにきたごんを兵十は撃ってしまう。

この物語は、「わたし」が小さい時に茂平じいさんから聞いた話と前置きしてからスタートしている。主に、第三者の目を通して実況中継のような「 しました」という文体で綴られていて、テンポよく読み進められる。物語自体は6つの場面に分けられていて、場面1では、ごんの紹介から、ある秋にごんが兵十にしたいはずらの様子が書かれている。場面2は、その10日ほど後、兵十の母親の葬式をうかがうごんの様子。場面3はごんの兵十に対するはじめてのつぐない。場面4と5は兵十と加助の会話に耳を傾けるごんの様子。そして場面6ではごんのつぐないを知らずに撃ってしまう兵十の様子が主に書かれている。

ごんは夜でも昼でも辺りの村に出没してはいたずらを繰り返している。人の手が入っていないであろう「しだのいっぱいしげった森の中」に巣穴を構えていることやそこに「ひとりぼっち」で暮らしているごんの境遇を鑑みると、小ぎつねであるがゆえ、触れ合いを求めるごんのさみしい気持ちを解消する手段としてのものであると考えられる。それが兵十にしたいはずらを契機に変化していく。自らのさみしさを紛らわすための、ごん対人間の関わりから、母を亡くして同じ境遇をもった兵十に的をしぼった関わりである。その関わりがいたずらからつぐないへと変わったことからごんの兵十に対する明らかな好意が感じられる。しかし、物語の最後は悲劇的である。ごんと兵十の「心の通い合い」を考えると、段階を踏んで移り変わるごんの心情と比べ、兵十のそれは「火なわじゅうをばたりと、とり落とし」た部分に凝縮され過ぎている。そのため、「死を通してはなお、すべては通じ合えなかった」と読むことができるが、児童には「心の通い合いの難しさ」に気づき、だからこそ、自分の気持ちを伝える努力をおろそかにせず、互いを理解し合う喜びがかけがえのないということを感じてほしいと願っている。

## (2) 児童観 省略

## (3) 指導観

初発の感想を大切にする。

授業に先立って児童は「ごんぎつね」の読み聞かせを受けての感想を書いている。この感想を学習問題と関連付け、読み取りをする際に取り上げることで、児童の興味を高めたい。具体的に以下に示す。

- ・ 兵十の母が亡くなったのはごんのせいだ（ごんが殺した）と考えているD児とF児には、実際はそうではないことをごんの言葉（p.84の1.8）に注意を向けさせて修正していく必要がある。
- ・ ごんのつぐないをやさしいとだけとらえているE児には、場面1で、ごんのするいたずらのひどさに気づかせる。
- ・ ごん一辺倒である気持ちの読み取りに「いたずらをされた兵十の気持ちはどうだろう」と働きかけることで、二者の心の通い合いについて理解が及ぶように指導したい。その際に兵十の気持ちにつながる感想が書いているA児とC児の感想を取り上げることをきっかけとしたい。
- ・ B児はひたむきにつぐないを行うごんの姿に感動を覚えているので、場面6で兵十のごんに対する憎しみと対比させるために取り上げる。

ごんの気持ちが伺える言葉に着目させる。

児童の読み取りが一人よがりにならず、叙述に即したものにするため、「ちよっ、あんないたずらしなけりゃよかった。（p.84の1.13）」「おれと同じ、ひとりぼっちの兵十か。（p.85の1.3）」「おれは、ひきあわないなあ。（p.90の1.5）」などの言葉をごんの気持ちが伺えるキーワードとして着目させる。これらのキーワードをノートに書かせる、または教科書に傍線を引かせることでごんの気持ちを読み取らせる。音読を重視する。

声に出して読む作業を通して、授業のはじめではその時間の学習範囲を明確にして、授業の終わりでは読み取った心情や様子をもとにした音読で、さらに読解を深めたい。児童全員がすらすらと音読できる状態で読み取りに入っていけることが望まれるが、児童の中には文のつながりで読めない子もいる。そのため、個々による音読と形式段落で区切る音読を毎時間行うが、特に音読の苦手なE児とF児にひとまとまりの言葉ごとに区切って読ませるようにする。

また、「ごんぎつね」のまとめとして音読発表会を設定する。児童がそれぞれに一番感動した場面を選んで、音読発表をするという形で行うが、事前に児童には音読発表会をすることを述べ、音読に対する意識付けとしたい。なお、児童の読む箇所が重複することが十分考えられるが、お互いの読みの共感や思いの共有が得られると考えているので、大きな意味があると捉える。

## 3. 指導目標

「ごん」や「兵十」の気持ちを進んで読み取ろうとする。（関心・意欲・態度）

伝えたい場面を選び、音読発表会で音読発表ができる。（話すこと・聞くこと）

読み取ったことをもとに、音読で表現することができる。（読むこと）

「ごん」や「兵十」の気持ちを叙述に即して書くことができる。（書くこと）

「だれが」「いつ」「どこで」「なにを」などの基本的な文の構成について理解できる。（言語事項）

4. 指導計画 (10 時間扱い)

次	指導過程	主なねらい	時	活動内容	教師の支援	評価の視点	備考
一	学習の見通しを持つ。	「心の通い合い」について読んでいくという学習の見通しを持つことができる。	2	・新出漢字や語句を調べる。 ・最後に音読発表会をするという目あてを持つ。	・新出漢字を練習させる。 ・国語辞典を活用させる。 ・音読発表会をする旨を伝え、音読意欲をもたせる。	・すすんで新出漢字や語句を調べることができる。(意欲・関心・記述) ・音読をがんばろうという意欲をもてる。(意欲・関心)	国語ドリル  国語辞典
二	物語の内容を読み取る。	いたずらをするごんの気持ちを読み取ることができる。	2	・「ごんはどんなきつねか」文章からわかる部分に傍線を引く。 ・「ごんがいたずらする理由は何か」記述をもとに考え、発表する。	・文の範囲を指定する。(p.78 1.5 ~ p.79 1.5)  ・「ひとりぼっち」「夜でも昼でも」の言葉をごんになつたつもりで考えさせるように促す。	・わかる文に線を引くことができる。(記述)  ・いたずらする理由を記述をもとに考え、発表できる。(発表)	ワークシート  前時の板書を掲示する。
		兵十のおっかあのそう式を見てごんはどう考えたのか読み取ることができる。	1	・「あんないたずら-」と後悔している理由に線を引き、自分の言葉で説明する。	・「~しなければ」という表現からごんは後悔していることを理解させる。	後悔している理由に線が引け、自分の言葉で説明できる。(記述・発表)	
		つぐないをはじめたごんの気持ちを読み取ることができる。	1	・ごんが「おれと同じ」と思った理由と考えられる文に傍線を引く。	・ごんの境遇を振り返りながら考えられるように促す。	・傍線を引くことができる。(記述)	
		兵十と加助の話聞いてごんはどう思ったのか読み取ることができる。	1	・二人の後をついていくごんの心情を考え、発表する。	・記述をもとにごんになつたつもりで考えさせる。	ごんの心情を記述をもとに発表できる。(発表)	
		うなづいた時のごんと火なわじゅうをとり落とした時の兵十の気持ちを読み取ることができる。(本時8/10)	1	・目をつぶったまま、うなづいた時のごんの気持ちや火なわじゅうをとり落とした時の兵十の気持ちをワークシートに記入し、発表する。	・今までのごんや兵十の心情や行動を振り返りながら考えるように促す。	・ごんと兵十の気持ちを読み取ることができる。(記述・発表)	
		音読発表会を行い、作品に対する自分の感想をもつ。	1	・伝えたい場面を選んで音読する。 ・自分の感想がもてる。	・どの場面、どの言葉を伝えたいのか、読み取りを振り返って考えるよう助言する。	・伝えたい場面を選んで音読できる。(発表) ・自分の感想がもてる。(発表)	
四	言葉の学習	『決まった言い	1	・慣用句を使って	・文中だけでな	・慣用句を使っ	国語事

をする。	方 - 慣用句』を読み、言葉の学習ができる。	短文を作る。	く、辞書からさまざまな慣用句を探させる。	て短文を作ることができる。(記述)	典ワークシート
------	------------------------	--------	----------------------	-------------------	---------

## 5. 本時の指導

### (1) 目標

うなづいた時のごんと火なわじゅうをとり落とした時の兵十の気持ちを読み取って、書くことができる。(読むこと・書くこと)

場面6を兵十の気持ちの移り変わりに気をつけて音読することができる。(読むこと)

### (2) 展開(8/10)

過程目標(時配)	学習内容と予想される児童の活動	教師の支援(・)と評価( )	備考
1.前時の学習を振り返り、本時のめあてを確認することができる。(8)	1.前時の学習を振り返り、本時のめあてを確認する。 場面4・5のごんの様子を前時の板書で振り返る。 本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">うなづいた時のごんと火なわじゅうをとり落とした時の兵十の気持ちを読み取るう</div>	・教科書に傍線を引いた「おれは、ひきあわないなあ」というごんのつぶやきを見ることで前時を振り返らせる。  本時のめあてを確認することができたか。(観察)	前時の板書(掲示)
2.ごんや兵十の気持ちを読み取り、書くことができる。(30)	2.ごんの気持ちや、兵十の気持ちを読み取り、書く。 学習場面を音読する。 ごんや兵十の気持ちの伺える言葉に着目する。 p.90 l.7 「その明るる日も、」 ・次の日。 ・「ひきあわないなあ」と思った次の日。  「ようし。」の後に続く言葉を考える。 l.11~12 「こないだ、またいたずらをしにきたな。」 ・加助と話した時から ・魚やうなぎのいたずらの時から  l.11 「ぬすみやがった」「ごんぎつねめ」 ・すごく怒っている ・うらんでいる  l.13 「ようし。」 ・ごんぎつねめ ・殺してやる	・個々で学習場面を音読させる。 ・着目させる言葉を赤線で引かせる。 ・「ひきあわないなあ」と思った翌日であることを確認させ、ごんのひたむきさに気づかせる。  ・「こないだ、」と言っていることから、いたずらされた以降、兵十はごんの行動を知らないことを押さえる  ・「～しやがった」「～めが」という表現から、兵十のにくしみに気づかせる。  ・教科書に考えた言葉を書き込ませる。	

<p>3.気持ちの移り変わりに気をつけて音読することができる。(7)</p>	<p>p.91 l.3「かけよってきました。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いたずらぎつねが死んだか</li> <li>・何か盗まれていないか</li> </ul> <p>1.4「くりがかためて」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・偶然そうなったから</li> <li>・大事に置いたから</li> </ul> <p>目をつぶったまま、うなずいた時のごんの気持ちと火なわじゅうをとり落とした時の兵十の気持ちをワークシートに記入し、発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>&lt;ごん&gt; やっとなんかしてくれた。</p> <p>&lt;兵十&gt; まさか、お前だったなんて。</p> </div> <p>3.兵十の気持ちの移り変わりに気をつけて音読する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・兵十の目線は、まず最初に「うちの中」次に「くり」、その次に「ごん」と移り変わっていったことに気づかせる。</li> <li>・目線の変化がわかる文に線を引くよう助言する。</li> <li>・「くりがかためて」にごんの気持ちがかもっていることにも簡単にふれる。</li> <li>・今までの兵十の行動を振り返りながら考えるように促し、書けていない子には兵十が「やっとなんか」気づいてくれたことを強調する言い方で助言する。</li> </ul> <p>ごんや兵十の気持ちを読み取り、書くことができたか(記述・発表)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個々で音読させ、その後、形式段落で区切って順番に音読させる。</li> <li>・読み取りをもとに兵十の気持ちを想像しながら音読するよう助言する。</li> </ul> <p>気持ちの移り変わりに気をつけて音読することができたか。(観察)</p>	<p>ワークシート</p>
--	---	--	---------------